

## 令和6年6月定例会市議会市政報告

令和6年第3回釧路市議会6月定例会の開会にあたり、2月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

最初の報告は、「**内航定期コンテナ船の新規就航**」についてであります。

釧路港における内航定期コンテナ船の新規就航につきまして、今般、5月18日に、オーオーシーエル OOC L 日本支社と井本商運株式会社により、内航定期コンテナ船「ときわ」が就航し、釧路港と京浜港を結ぶ新規航路が開設されました。

内航定期コンテナ船の新規就航は、1998年（平成10年）に大雪山丸が運航を停止して以来、26年振りのものであります。

京浜港からは、主に飼肥料や牧草などが移入され、また、釧路港からは、東北海道の農水産品が移出されることにより、物流はもとより、経済活性化に寄与するものと考えております。

国際コンテナ戦略港湾である京浜港において、世界の主要港湾への外航定期コンテナ航路と接続することにより、外貿コンテナの取扱量の回復が期待されます。

今後におきましても、釧路港のコンテナターミナルの機能や利便性について広くPRし、釧路港の更なる利用推進を図るとともに、東北海道の物流拠点港としての役割を果たして参ります。

報告の第2は、「**阿寒アイヌクラフトセンターのオープン**」についてであります。

本年5月9日に、旧阿寒湖温泉除雪ステーションを活用して整備を進めてまいりました、アイヌ文化・工芸技術の担い手育成施設「阿寒アイヌクラフトセンター、ハリキキ」がオープンいたしました。

アイヌ語で「頑張る」を意味するハリキキの愛称を持つ本施設では、アイヌ文化・技術の担い手不足といった課題を解決していくため、国のアイヌ政策推進交付金を活用したアイヌ工芸等担い手育成事業を行ってまいります。

担い手育成事業では、阿寒湖アイヌコタンの特色である木彫もくちょうや刺繍などを生かしたカリキュラムにより、第一期生として4名が工芸家を中心とした講師の指導の下、次世代のアイヌ工芸技術の担い手として日々研鑽しており、今後、2年間の研修を経て、コタンを中心に活動することで、アイヌ文化を伝承していくための人材育成の推進、阿寒湖アイヌコタンの持続的発展に寄与するものと期待しております。

市といたしましては、今後とも阿寒湖で培われてきた技術を大切にしながら、地域の宝であるアイヌ文化の振興、地域の活性化を図ってまいりたいと考えております。

報告の第3は、「**令和5年度各会計の決算状況**」についてであります。

はじめに、一般会計につきましては、歳入総額約1,031億9,000万円、歳出総額約1,010億2,000万円となり、形式収支は約21億7,000万円の黒字となったところであります。

これは、歳入で、各種事業の執行に伴う国庫支出金や市債など、繰越明許費を含めて約 64 億 2,000 万円の収入不足となったものの、歳出において、扶助費の減並びに工事契約差金や経費の節減などによる執行残が、繰越明許費を含め、収入不足分を上回る約 85 億 9,000 万円となったことによるものであります。

決算剰余金のうち、繰越明許費に充当する一般財源約 6,000 万円と、今後の補正財源として約 6 億 6,000 万円を次年度へ繰り越すとともに、10 億 6,000 万円を財政調整基金へ 3 億 9,000 万円を公共施設整備等基金へ、それぞれ積み立てたところであります。

特別会計につきましては、国民健康保険特別会計で、保険給付費が予算を下回ったことなどから、約 3,000 万円の剰余金が生じたので、国民健康保険事業運営基金に積立てをいたします。

介護保険特別会計の保険事業勘定では、保険料収入の増や保険給付費が予算を下回ったことなどから、約 4 億 7,000 万円の剰余金が生じたので、介護給付費準備基金に積立てをいたします。

駐車場事業会計では、使用料収入が予算を上回ったことなどから、約 2,000 万円の剰余金が生じたので、駐車場整備基金に積立てをいたします。

国民健康保険阿寒診療所事業特別会計ほか、他の特別会計につきましては、概ね収支均衡する見込みとなっております。

報告の第 4 は、「**工事発注状況**」 についてであります。

5 月 31 日現在、本年度の建設事業の発注予定額は、約 135 億 9,000 万円となっており、発注済額は約 59 億 3,000 万円であり、発注率はおよそ 43% となっております。

このうち、地元企業への発注は、金額で約 55 億 2,000 万円、率ではおよそ 93% であります。

今後とも地域経済の動向を念頭に置き、工事の早期発注に努めてまいります。

以上で、市政報告を終わります。